

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 33 号

第 33 週 (8 月 14 日 ~ 8 月 20 日)

発行年月日:平成18年(2006年) 8 月 25日

発行 :滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

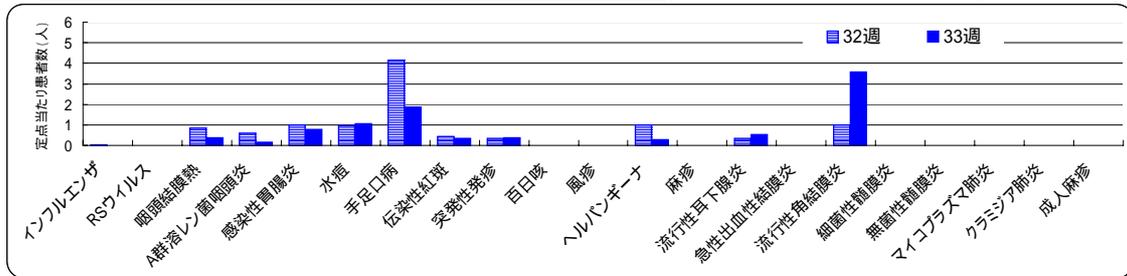
### 今週の感染症発生動向

#### 腸管出血性大腸菌感染症の発生は先週に引き続き増加中 流行性角結膜炎の発生は急増

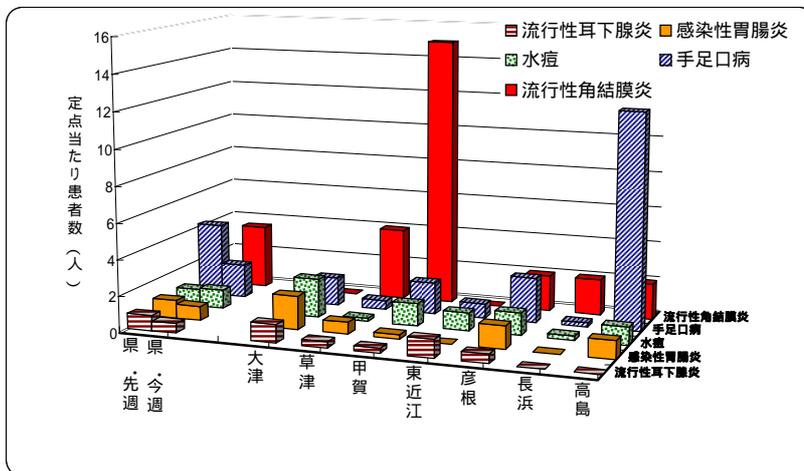
定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(8月7日~8月13日)の報告数よりさらに少なくなっています。水痘、突発性発疹、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)および流行性角結膜炎は増加していますが、その他の疾患については減少または変化なしとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

全数把握対象疾患では、二類感染症のコレラ1名(疑似症患者)および三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症4名の届出がありました。

定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第33週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、流行性角結膜炎、手足口病、水痘、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎の順に多くなっています。流行性角結膜炎は甲賀で急増し、他の保健所においても増加しています。手足口病の発生は、先週と同様に高島で非常に多くなっています。

### 感染症のミニ知識 ~ 流行性角結膜炎 ~

アデノウイルス(D群)に感染することにより起こる疾患で、主に8型、19型、37型の血清型による流行が多く見られます。また、新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染により角膜穿孔を起こすことがあるため注意が必要です。

流行時期は8月を中心として夏季に多くっており、1~5歳を中心とする小児に比較的多く発症していますが、成人を含む幅広い年齢層に発生しています。

・**感染様式**:接触感染

・**潜伏期**:8~14日

・**臨床症状**:突然の発症、眼瞼(まぶた)の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹  
感染力が強いので、両方の眼に症状がでる。

・**治療**:症状により抗炎症剤、ステロイド剤、抗菌剤等を点眼する。

・**予防**:患者の分泌物、分泌物を拭いたティッシュペーパー、タオル、洗面器等に触れないようにし手洗いをきちんとする。また、器具などの十分な消毒等により院内感染を防ぐ。

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (33週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (33週)	全国 (33週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	コレラ	1	1	34	0	54
	細菌性赤痢	0	(*)2 4	257	(*)3 7	556
三類感染症	腸チフス	0	0	52	0	50
	腸管出血性大腸菌感染症	4	26	2,034	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	0	43	0	40
	A型肝炎	0	2	234	1	168
	オウム病	0	0	15	1	34
	デング熱	0	0	30	1	73
	マラリア	0	0	38	0	66
	レジオネラ症	0	10	303	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	7	461	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	165	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	101	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	81	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	7	778	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	59	0	81
	梅毒	0	3	380	0	555
	破傷風	0	0	64	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	43	2	65
	急性脳炎	0	1	105	2	180

\*1:平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。

\*3:検査法第26条の3に基づく検査所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

### 全国における全数報告感染症の発生状況 - 第33週(8/14～8/20) -

一類感染症:報告なし	四類感染症:日本紅斑熱 1例	五類感染症:後天性免疫不全症候群 17例
二類感染症:細菌性赤痢 10例	デング熱 1例	クロイツフェルト・ヤコブ病 1例
コレラ 2例	マラリア 2例	ウイルス性肝炎 5例
三類感染症:腸管出血性大腸菌感染症 158例	レジオネラ症 10例	梅毒 4例
四類感染症:A型肝炎 3例	五類感染症:アメーバ赤痢 12例	急性脳炎 1例
	ジアルジア症 2例	破傷風 2例

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点\*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。\*疾患により定点数は異なります。

### (1) 疾病別・週別発生状況(第28～33週、7/10～8/20)

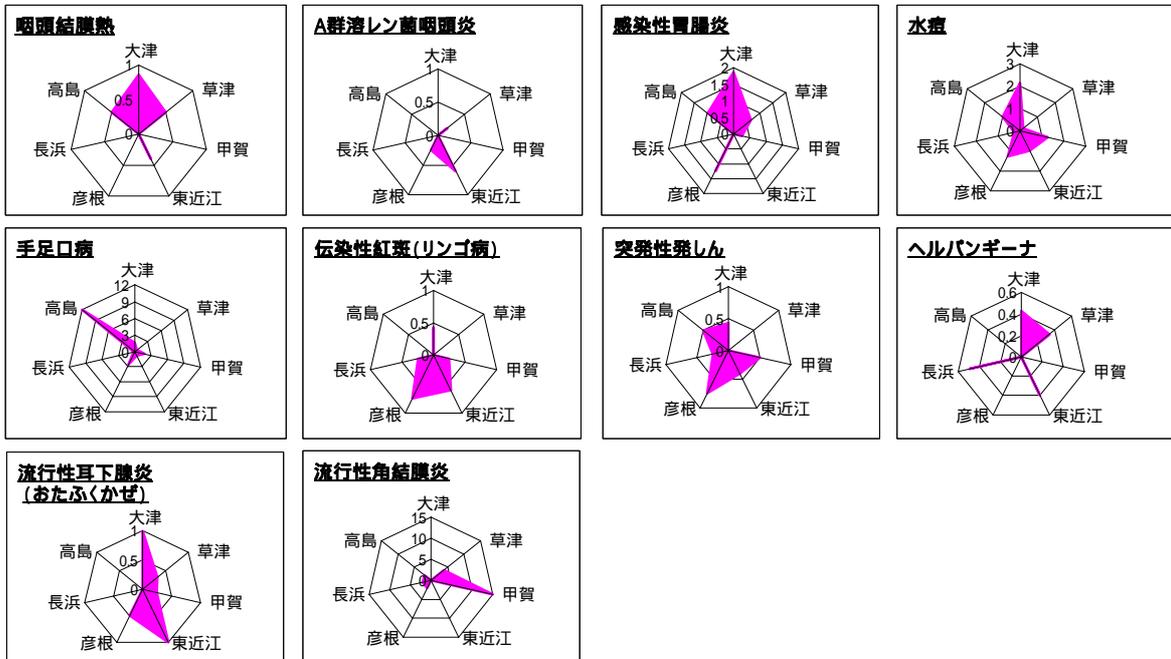
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)						
	28週	29週	30週	31週	32週	33週	週
	(7/10～)	(7/17～)	(7/24～)	(7/31～)	(8/7～)	(8/14～)	29 30 31 32 33
インフルエンザ	0.02	0.08	0	0.04	0.02	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	1.50	0.97	0.84	0.81	0.84	0.38	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.69	0.84	0.53	0.53	0.59	0.16	
感染性胃腸炎	0.97	1.56	1.09	1.25	1.00	0.78	
水痘	1.47	1.50	0.91	0.84	0.97	1.06	
手足口病	5.19	4.69	4.81	4.22	4.13	1.88	
伝染性紅斑(リンゴ病)	1.06	0.47	0.94	0.66	0.44	0.34	
突発性発疹	0.59	0.31	0.59	0.56	0.34	0.38	
百日咳	0.03	0.03	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0.06	0	0	
ヘルパンギーナ	3.78	2.09	2.00	1.38	1.00	0.28	
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.03	0.56	0.63	0.53	0.34	0.53	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.86	0.14	0.43	1.43	1.00	3.57	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0.14	0.29	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第33週, 8/14~8/20)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)			
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島				
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0				
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0				
咽頭結膜熱	0.38	0.86	0.50	0	0.40	0	0	0.50	■			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.16	0	0.17	0	0.60	0.25	0	0	■			
感染性胃腸炎	0.78	1.86	0.67	0.25	0	1.25	0	1.00	■			
水痘	1.06	2.14	0.17	1.25	1.00	1.25	0.25	1.00	■			
手足口病	1.88	1.57	0.50	1.75	0.80	2.50	0.25	12.00	■			
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.34	0.43	0	0.25	0.60	0.75	0.25	0	■			
突発性発しん	0.38	0.43	0	0.50	0.40	0.75	0.25	0.50	■			
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0				
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0				
ヘルパンギーナ	0.28	0.43	0.33	0	0.40	0	0.50	0	■			
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.53	1.00	0.33	0.25	1.00	0.50	0	0	■			
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
流行性角結膜炎	3.57	0	4.00	15.00	0	2.00	2.00	2.00	■			
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0				
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0				

■ は定点当たり患者数が先週より増加、■ は定点当たり患者数が非常に多い状態  
 0 1 2 3 4 5  
 定点当たり患者数(人)

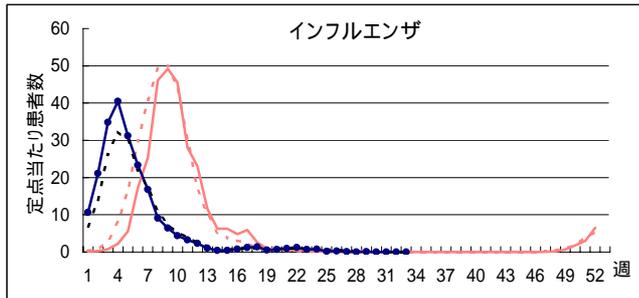
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



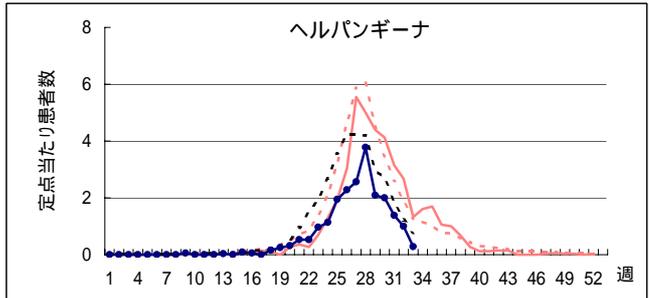
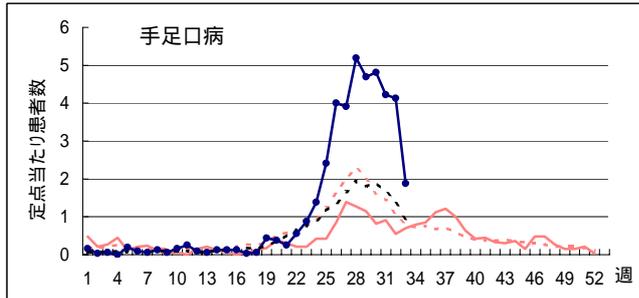
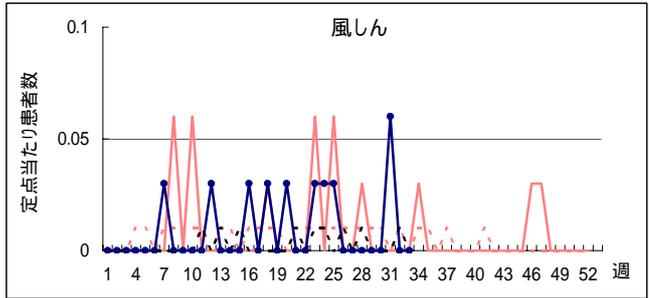
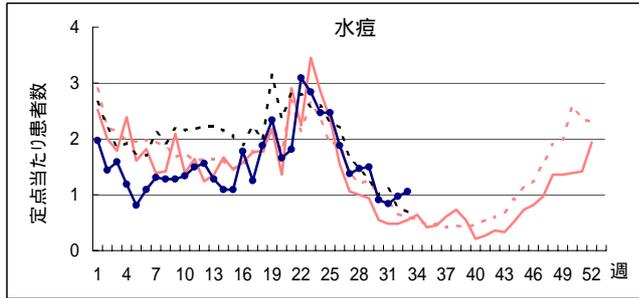
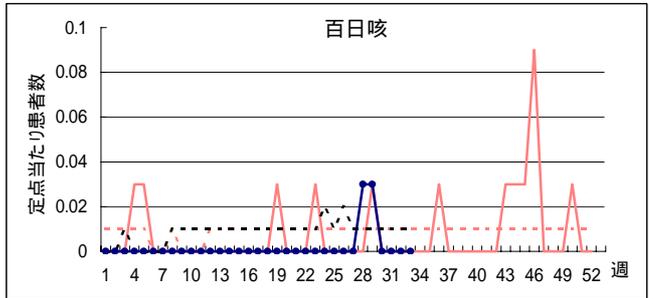
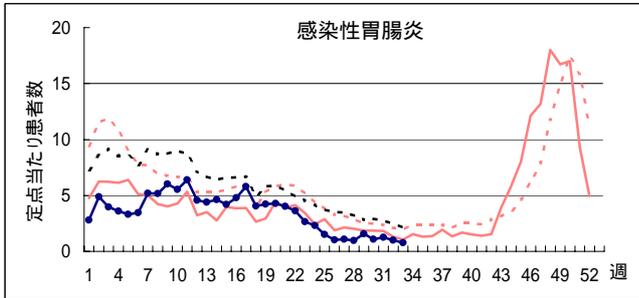
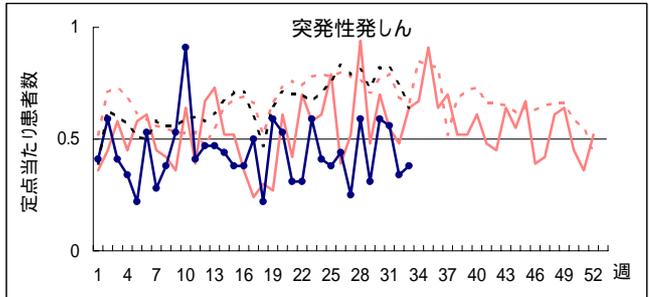
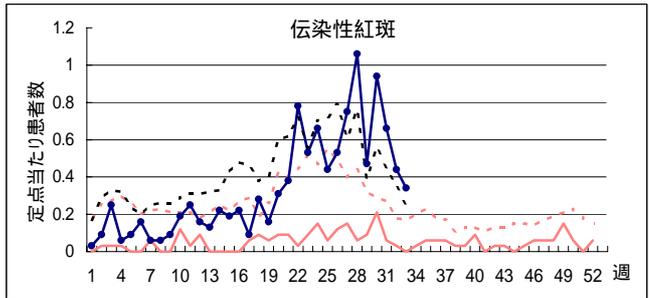
今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

咽頭結膜熱-----ほとんどの保健所で先週より減少または変化なしとなっており、県全体としては昨年の同時期より少なくなっています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎----先週まで非常に多く発生していた高島からの報告はありません。  
 感染性胃腸炎-----県全体では微減となっていますが、大津および彦根で先週よりやや多くなっています。  
 水痘-----大津で先週よりかなり多くなっています。  
 手足口病-----県全体では急減していますが高島で先週よりやや増加し、定点当たり患者数は12.00と非常に多くなっています。  
 伝染性紅斑-----県全体では先週より減少していますが、彦根でやや多くなっています。  
 突発性発しん-----県全体では先週よりやや増加しています。  
 ヘルパンギーナ-----ほとんどの保健所で先週より減少しています。  
 流行性耳下腺炎-----大津および東近江でやや多くなっています。  
 流行性角結膜炎-----甲賀で急増し、草津、彦根、長浜および高島からも報告されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第33週、H18.1.2～H18.8.20)



H17 〔 滋賀 ————  
 全国 .....  
 H18 〔 滋賀 ●—●—  
 全国 .....



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第33週、H18.1.2～H18.8.20)

H17 { 滋賀 ————  
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●  
全国 - - - - -

